

自己点検・評価シート

基準 I 建学の精神と教育の効果

		自己点検・評価のための観点		現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準 I-B 教育の効果	① 教育目的・目標を確立している。	1	学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。	本学の「立学の精神」「学院教育綱領」「教育目標」等を踏まえて、学則に「日本語文化学科は、日本語・日本文学・日本文化の教育を通じて、健全な社会の構築と発展に寄与することのできる、有為な女性を養成することを目的とする。」と定めている。		
		3	学科・専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に responding しているか定期的に点検している。	各学科が産業界から教育内容に関する評価を受ける意見交換会を実施している。日本語文化学科では2018年度に実施しており、次回は2022年度の予定である。		
	③ 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。	1	三つの方針を関連付けて一体的に定めている。	カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム編成方針として定めており、カリキュラムツリーにディプロマポリシーの対応項目が示されている。アドミッション・ポリシーはディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための資質を備えた入学者受け入れの方針として定めている。		
		2	三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。	三つのポリシーは毎年学科内において議論を重ね、改訂する際には学科会議の審議を経て策定している。		
		3	三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。	カリキュラムマップに科目ごとのディプロマポリシー対応項目を示すとともに科目目的と到達目標を明記しており、シラバスにも科目目的と到達目標を示すことにより3つのポリシーに基づいた教育が行われるようにしている。		

自己点検・評価シート

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

		自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準Ⅱ-A 教育課程	① 学科・専攻課程ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。	1	卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。	ディプロマ・ポリシーに、卒業認定・学位授与に当たって獲得が期待される学習成果が明記されている。	
			①卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。	ディプロマ・ポリシーに卒業要件等は明記されている。なお、日本語文化学科では資格取得は卒業認定・学位授与に関わらない。	
		2	卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。	ディプロマ・ポリシーに示した卒業認定・学位授与の方針は、所定の単位を修得して一定の能力・資質を備えていることを保証しており、社会的通用性を有すると認められる。	
		3	卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。	ディプロマ・ポリシーは毎年学科内において議論を重ね、改訂する際には学科会議の審議を経て策定している。	
	② 学科・専攻課程ごとの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。	1	教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。	カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーを達成することを主たる目的として策定されている。	
		2	教育課程編成・実施の方針に従って、教育課程を編成している。	カリキュラム・ポリシーに示した方針のもとにカリキュラムは編成されている。	
			①短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。	カリキュラム・ポリシーは短期大学設置基準をふまえて策定されており、カリキュラムの体系性はカリキュラムマップに図示されている。	
			②学習成果に対応した、授業科目を編成している。	すべての開講科目はカリキュラムマップにおいて科目目的・到達目標が示され、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果との対応が明示される。	
			③単位の実質化を図り、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。	キャップ制を導入して、1年間及び1学期間に履修登録できる単位数の上限を定め、単位の実質化を図っている。	
			④成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にのっとり判定している。	短期大学設置基準の示すところに従い、獲得される学習成果はシラバスに到達目標として明示され、それに基づいて客観的で厳密な成績評価を施している。	
	3	教育課程の見直しを定期的に行っている。	学科カリキュラム検討委員会が年度ごとに点検し、必要に応じて見直している。		

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
	⑤	学科・専攻課程ごとの入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。	1 入学者受入れの方針は学習成果に対応している。	アドミッション・ポリシーに、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるのに必要な知識・技能・意欲を備えた女性を求めていることが記載されており、学習成果に対応していると言える。		
			3 入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。	アドミッション・ポリシーに、教育を受けるのに必要な知識・技能・意欲として、入学前の学習成果が明記されている。		
			4 入学者選抜の方法は、入学者受入れの方針に対応している。	入学者選抜は、入試の各区分に応じて筆記試験・面接等を課し、アドミッション・ポリシーに対応した選抜を実施している。		
			5 高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。	公募制推薦入試・一般選抜・指定校推薦入試の各区分について筆記試験、面接などの選抜方法に応じた選考基準を設定し、公正かつ適正に選抜している。		
基準Ⅱ-B 学生支援	①	学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。	1 教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。			
			④授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。	同一科目を複数開講する場合にも科目目的・到達目標は同一であり、成績評価方法も統一している。担当者によって異なることがないようにしている。「日本語ライティング」「卒業演習」等の科目では授業内容を共通にして担当者間で綿密に調整している。遠隔授業であってもGoogleClassroom等を活用した授業方法について統一を図っている。		
			⑥学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。	本学は担任制であり、持ち上がりの担任が入学から卒業まで一貫して履修状況を注視し、必要に応じて指導を加えている。学生の登学が制限される状況下にも担任が電話、メール等の手段を用いて指導に当たっている。		
	②	学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。	3 学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。	1年次必修科目「初期演習Ⅰ・Ⅱ」において3つのポリシーの理解を促し、それをふまえた2年間の学習行動計画を立てさせている。		
			4 学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。	履修便覧を配付、「STUDENT GUIDE」をウェブサイト上に公開しているほか、入学時オリエンテーションでそれらの概要を示した補助資料を配付している。		
			6 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。	本学は担任制であり、持ち上がりの担任が入学から卒業まで一貫して指導、助言を加えている。学生の登学が制限される状況下にも担任が電話、メール等の手段を用いて指導に当たっている。		

自己点検・評価シート

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準Ⅲ-A 人的資源	②	専任教員は、教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。	1 専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。	専任教員は、各人の専門領域がカリキュラム・ポリシーの示す学習成果に関わる範囲において、着実な研究成果を挙げている。そのことは教育研究業績書として公開されている。		